

仏様のおはなし新シリーズ第67集 その2 「正義の味方の見方」

先日、高校時代の友人で集まる機会があり、古今東西ゲームをした時の話です。

「古今東西、SMAPの名前！」「すぐ終わるじゃないか！」

「古今東西、日本の苗字！」「多すぎるじゃないか！！」……てな具合に遊んでいました。そして、「古今東西、ヒーローの名前！！」というお題の時に、友人のAが「月光仮面」と言いました。昨年で30歳になつた私達ですので、あつけにとられて「月光仮面を選ぶなんて古いな」と笑つていました。しかし、この「月光仮面」は、実に仏教的な心の持ち主なんですね。

月光仮面と言えば、全身真っ白で、顔にはターバンとサングラス、大きなマントをなびかせた特徴的な姿をしています。そして、「罪を憎んで人を憎まず」という精神で事件に挑むのです。彼のその姿勢は持っている武器の使い方にも反映されています、2丁の拳銃を持っていますが、敵の命を奪つたり、やつつけたりするためには使われず、相手の武器を撃ち落とすことだけに使われます。そして、でてくる敵たちはみんな、自分達の強い欲のせいで自滅してしまい、月光仮面はいつもそれを悲しそうに見つめるのです。昨今のテレビや映画に出てくるヒーローは、自分のことを正義だと名乗り、その正義を振りかざしながら悪をやつづけます。正義が正しくて、悪は抹消されるべき世界として描かれます。

ところが「月光仮面」は、正義を求めてはいますが、自分自身を正義だとは言わないのです。あくまでも「正義の味方」として描かれます。この違いはとても大きいですね。対立する者同士が、「自分たちだけが正義だ！」と主張し合えば、争いしか残りません。

仏教は、すべてのものが縁起で成り立ち、すべてのものが互いに関わり合いながら存在すると説きます。そのことに気づかないから悩みや苦しみ、最後に争いが生まれるのであって、それぞれに絶対的な「善」や「悪」はない、と説きます。親鸞聖人も歎異抄という書物の「善惡のふたつ、總じてもつて存知せざるなり」とはじめる言葉の中で、善悪を決めつけようとするところが煩惱だと言わっています。

そもそも仏教には、善が悪をやつづけるという世界ではないのに、私達が自分の見方によつて善悪を決めてしまうのです。

戦争、殺人、暴力が限りなく発生してしまう現代社会を見るとき、「憎み、殺し、裁き合う」という思想が蔓延している世界の中で、「憎むな、殺すな、赦す」と呼び掛けてくれる月光仮面を私達の心の中に生み出すことができれば、世界はどれだけ穏やかになることでしょう。

